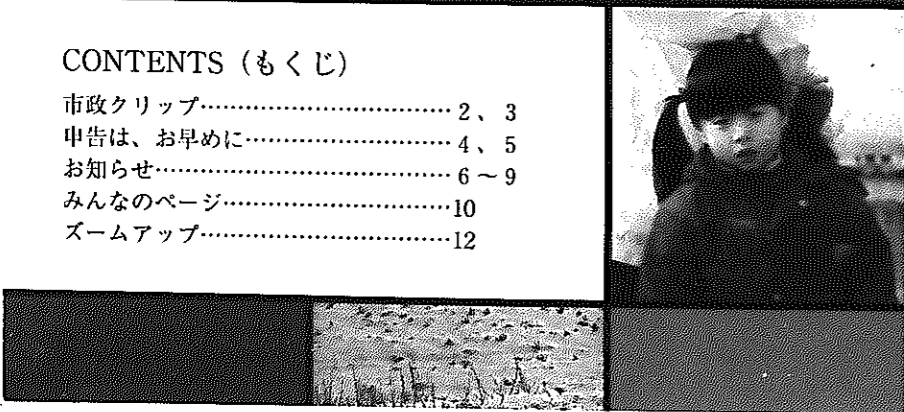
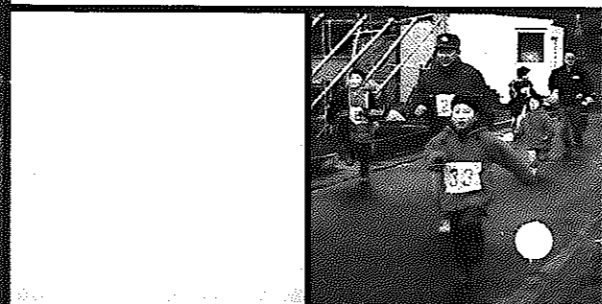
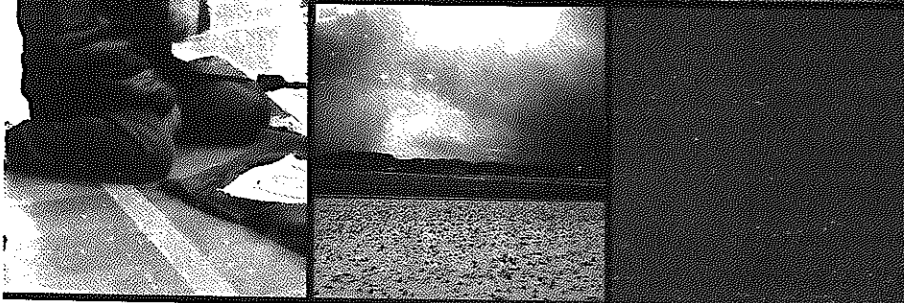


広報 しろね

特集 申告は、お早めに

2. 1
2001 No.585

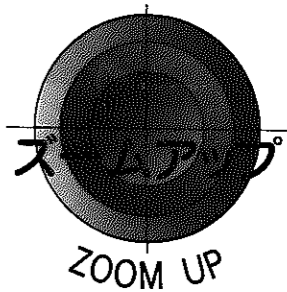


CONTENTS (もくじ)

- 市政クリップ..... 2、3
- 申告は、お早めに..... 4、5
- お知らせ..... 6～9
- みんなのページ..... 10
- ズームアップ..... 12

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。

▶右から中島薫さん、彩子さん



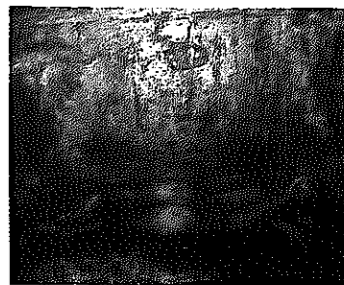
親子で県芸術美術展入選

昨年十一月、「第二十九回県芸術美術展(芸展)」で中島薫さん(庚・五十一歳)・彩子さん(同・二十三歳)親子が、そろって洋画部門に入選しました。

「楽しく描くことができました」と話す彩子さんの作品名は「片時」。大学の卒業制作のときに描いたもので、キャンパスの大きさは一〇〇号です。薫さんの作品名は「青き追想」。キャンパスの大きさは八〇号で、制作に一月をかけて仕上げました。

「一緒に入選できたことは、とてもうれしかった。これをきっかけにまた絵を描き続けたいです」と薫さん。彩子さんも「入選できてうれしいです」と話してくれました。

▼薫さんの作品
「青き追想」



▲彩子さんの作品「片時」

▶数字で見る市勢 ※1月1日現在 ※()内は前月比

人口	40,873人(+4人)
男	20,026人(+13人)
女	20,847人(-9人)
世帯	11,078世帯(+7世帯)
出生	37人
死亡	35人
転入	77人
転出	75人

編集ルーム

◎昨年のクリスマスに知人のHさんから、アマリリスの球根の鉢植えをもらいました。◎小学生のときに朝顔を育てて以来、植物にまったく縁の無い私は不安がよぎりましたが、Hさんの「温かい場所に置いて、水も頻りにやなくて大丈夫。無精の人にびったりの花です」との優しい言葉?に一安心。アマリリスを咲かせることが、21世紀最初のチャレンジになっています。(ま)

白根の子どもたちは、堀を挟んで小風合戦で遊んでいました。昭和初期の小風は半紙大。大正初期のころは風紙の四分の一のミニ風でした。「私たちは仲間から、版木を借りたり貸したりして、風を自作した。版木は主に大風の図柄が彫ってあり、私も二、三枚持っていた」と、明治生まれの故郷川盛吉氏は、「日本の風の会」会報第十一号で述べています。

また小風版木は、子どもの集合場所だった一文店にも用意されていました。四半枚、半枚、一枚と各サイズがあり、そこで刷られた版木絵を買って、小風に仕上げ合戦をしたのです。

さらに昭和初期には、小風版木を朴(ホオ)の板に彫り、ポスターカラーできれいに色付けして、装飾として用いることが流行しました。器用な人の作品は「子どもの作?」と、大人を驚かせました。白根の版木絵は風屋だけのものではなく、広く親しまれていたのです。



白根の版木風絵

あなたも風博士

文・田村和雄
(しろね風と歴史の館運営委員会委員)